

日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会 水化学管理分科会
第2回 HWC標準作業会 議事録(案)

1. 日 時：平成21年11月19日(金) 13:30~17:00

2. 場 所：日本原子力発電㈱ 本店 3-B会議室

3. 出席者：

出席者) 内田主査、高木副主査、久宗幹事、小野、小藪、堂前、和田、瀧口、太田

4. 配布資料：

2-0 第2回 HWC標準作業会 議事次第

2-1 第1回 HWC標準作業会 議事録(案)

2-2 BWR水素注入標準 骨子案

2-3 HWC標準策定スケジュール案

2-4 EPRI水化学ガイドラインにおける硫酸イオンの扱い

2-5 水質管理値比較表(通常時)

5. 議事概要：

○出席者の確認

出席者の確認を行い、定足数を満足していることが確認された。

○前回議事録の確認(資料2-1)

前回議事録の確認を行い、一部誤記訂正の上、承認された。

○原技協/HWC-WG側の要求事項、スケジュールの明確化

太田委員より、原技協/HWC-WGの活動状況が報告された。

まずは現状知見に基づくガイドラインを2年を目途で作成し、HWC標準側の活動進捗に伴う評価精度向上、新たな知見拡充等に伴い、必要に応じ改訂等により適宜ガイドラインに反映し、精度の向上を図る方向。

HWC標準側として、現状知見の活用にあたっては、論文により公開することが望ましく、今後、著者、期限を決めて対応していく方向とした。

○HWC標準側の検討事項、使用方法の明確化

瀧口委員より、BWR水素注入標準の骨子案が示された(資料2-2)。

水素注入量設定方法、水素注入効果確認方法について、以下のような意見があった。

- ・水素注入量設定方法として、①解析のみ、②実測のみ、③実測+解析の方法がある。
- ・それぞれの方法について、結果に見込むべきマージンが異なる。各方法の選択はユーザー側の判断による。
- ・実機プラントに水素注入を適用する場合の一般的なパターンとしては、まず解析で水素注入量(水素注入設備)を決め、注入後にECPを含むプラント応答を実測により確認し、解析に反映する、といったフローが想定される。

これら意見を踏まえ、資料に反映する(瀧口委員)。

合わせて、本骨子案（資料2-2）について、コメントを持ち寄ることとした（各委員）。

○必要水素注入量の検討

必要水素注入量について、現状知見を整理していく（高木副主査、和田委員）。

○その他

・硫酸イオンの扱いについて

硫酸イオンの扱いについて、EPRI ガイドラインでの扱い、水化学管理指針での扱いについて紹介された（資料2-4,2-5）。

維持規格のき裂進展速度線図の元となっているデータ群の条件（5ppb 以下）は水化学管理指針の値（管理レベル1で2ppb 以下であり、5ppb という値は使用されていない）と整合が取れていないことが確認された。なお、EPRI ガイドラインのアクシヨンレベル1では5ppb 以下となっており、また、5ppb 以下であればき裂進展速度への有意な影響はないとの知見もある。

2ppb 以下であれば5ppb 以下に包含されることから問題なく適用できる可能性も示唆され、今後、扱いについて検討していくこととなった。

・今後について

瀬口委員より、HWC 標準策定スケジュールが示された（資料2-3）。BWR 水化学管理指針作業会の活動が後ろ倒し（半年）となっているが、大勢に影響なく、HWC 標準としては2011 年度上期での制定を目指す。なお、2009 年度内を目的にHWC 標準を形にする。

また、HWC 標準に関する従来知見について、各委員にて確認することとした（各委員）。

・次回について

次回は、12/24 午後開催することとした（場所は別途調整）。

以上